

## 事業報告書

|          |  |
|----------|--|
| 日時       | 令和4年10月29日(土) 14:00~16:00  |
| 目的       | <p>男女共同参画社会では、男女が共にやりがいや充実感を感じながら働き、家庭、地域活動において、多様な選択ができるよう、ワークライフバランス(仕事と生活の調和)の実現が必要である。</p> <p>介護は、社会保険制度や介護保険制度の変化、介護形態の多様化、在宅介護の長期化・重度化などの理由で、世代も性別も問わず大きな問題となっている。今後、誰もが『介護する/される』時代の到来が予想され、仕事と介護が両立できる社会・職場がますます必要となる中、介護を担う当事者として知っておきたい情報等を提供することを目的とする。</p> <p>(「第6次沖縄県男女共同参画計画~DEIGOプラン~」2-4-30)</p>   |
| 対象       | 関心のある方   |
| 講師       | 代表 大城 五月 氏(合同会社 Hareruya)  |
| 会場       | ているる3階 研修室1. 2   |
| 参加者数     | 21名 (女性15名・男性6名)   |
| 講演内容(概要) | <p>講座の流れ ▶講話1時間15分 ▶ワーク15分 ▶質疑応答20分 ▶終了</p> <p>まず最初に、講師は自身の仕事の経験と、父親の介護に直面した経験を踏まえ、仕事と介護を両立するためには、「情報を得る」「介護と仕事を両立する環境を作る」「ひとりでやらない」ということを知ることができれば家族介護と仕事の両立について希望が持てると話した。</p> <p>講師は、本講座の目的を「突然やってくる家族介護に慌てず、自分自身の生活を崩すことなく、介護と仕事の両立について事前に必要な介護に関する知識や心構えを学ぶ」として、その内容として、3つあげた。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 超高齢化社会について</li><li>2. 介護保険制度を知る</li><li>3. 自分らしい介護と仕事の両立とは</li></ol> <p>1. 超高齢化社会について<br/>人口の5人に1人が75歳以上の後期高齢者になり、15歳~64歳までの生産年齢人口、いわゆる現役世代は減少し、支える側の現役世代には大きな負担が強いられることが予想でき、それによって生じる問題が2025年問題と解説。平均年齢=健康寿命とは言えず、その差は男性で8-9年、女性は12-13年。この差の年数は何らかの介護を要する状態と説明した。</p> <p>▶2025年問題4つのポイント</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 人口、労働力(少子高齢化、労働力人口の減少)</li><li>2. 医療(高齢者増加に対し、医師や看護師の人手不足)</li><li>3. 介護(「要介護」の高齢者が急増する一歩で介護人材の不足)</li><li>4. 社会保障費(支える現役世代が減少する中で高齢者の増加)</li></ol> <p>2. 介護保険制度を知る</p> |

介護保険制度は介護を社会全体で支えることを目的として 2000 年に創設された介護を必要とする高齢者を支える制度であり、40 歳の誕生日を迎えたら自動的に加入し介護保険料を納めることになる。85 歳以上では約 6 割以上が要支援・要介護認定を受けており、65 歳以上の 5 人に 1 人が要支援・要介護認定を受けていると解説。

申請の流れ→①要介護認定の申請、お住まいの市町村、地域包括支援センター ②介護認定調査 ③審査判定 ④認定 ⑤ケアプランの作成 ⑥サービスの利用開始介護保険認定が降りるまでに 1 ヶ月ほどかかり、かかりつけ医の診断書も必要になるので、病院も把握した状態で窓口に行く必要があります、困っている場合は困っていると担当の人に伝えてほしいと説明した。

介護離職者は全国で 10 万人といわれており、介護終了後、正社員としての再就職は厳しく、介護転職者も年収の大幅な収入減が多くみられ、社会に出ていない孤独から色々なストレスを感じることもある。また、介護にかかる平均年数と金額をみると、平均年数約 5 年、費用は 1 か月 7 万 8 千円、一時費用が 69 万円となり、合わせると約 500 万円ほどになる。

上記のことを考えると、介護離職や転職をせずに介護休暇や介護休業などの制度を利用して、介護できる環境を整えることも必要だと述べた。

～ワーク～

ここまでの自分の気持ちを自分自身でどう感じているか確認。

次に、近くにいる人と自分が今どう感じているかを話しシェアをする。

最後に「介護と仕事の両立」の考え方として、理想と現実のギャップは今ある制度やサービスを活用しながら、一人で抱え込まないこと。介護はリハビリ、介護、医療の専門職に交じり家族も家族にしかできない役割を担う「家族」という専門職としてチームで行うことが大切。一方で「家族の介護はしない」という選択もあり、家族の歴史、人の数だけ介護のかたちがある。他人の介護と比較して落ち込まないでください。家族の要望に寄り添いつつ自分自身の人生を諦めなかった先にあるのが、「自分らしい介護と仕事の両立」と述べました。



大城五月 先生



講座風景



ワーク風景

(自由記載欄より抜粋)

- ・「両立に不安があり、本講座を受けることになりましたが、行動に責任を持ち過ぎず、きっかけがあった時に対応しようと思えずこし楽になりました。また機会の際はよろしく願います。ありがとうございました。
- ・今は自分自身が直接親が介護ではなく、祖父母が高齢でおじおばが協力してみているのを横

|                            |   |
|----------------------------|---|
| <b>加<br/>者<br/>の<br/>声</b> | <p>で見ていて、今後我が身にあつたらと思って受講しました。経済面からみても仕事は続けながら両立できたと思います。大変参考になりました。ありがとうございました。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・とてもわかりやすい説明と丁寧な話し方でとても充実した講座になりました。現在、直面している親の介護状態なので大変学ぶことが多かったです。大城さんが「介護には、いろんな形があってそれぞれの家族の背景がある」という言葉に対して心が安らぎました。介護が負担にならないよう、楽しく、親と関わっていけたらいいなと思いました。本当にありがとうございました。</li><li>・介護者が色々と抱え込まず、負担が重くならないようにできる事を行っていかうと思いました。本日はありがとうございました。</li><li>・ストレートに聞きすぎているところがあったので、遠回りに聞く事も必要かと感じた。家族間でも一歩的にならない様気をつけます。</li></ul> |
| <b>主催等</b>                 | 主催：沖縄県・(公財)おきなわ女性財団   |